

健康経営特集2022

健康経営支援に力をいれる全国健康保険協会愛知支部

「健康宣言優良事業所」29社表彰



全国健康保険協会(協会けんぽ)愛知支部は健康経営に取り組む企業の支援に力をいれている。全国的に少子高齢化が進む中、従業員の健康は企業にとってますます重要になる。毎年取り組み企業の中から特に積極的な取り組みをする企業を「健康宣言優良事業所」として表彰している。今年も29社が受賞した。

主に中小企業の従業員とその家族が加入する協会けんぽ愛知支部(名古屋市中村区)は、021年度あいち健康経営アワード「表彰式」と協会けんぽの「健康宣言」に取り組み優良事業所表彰式(表彰企業29社)の合同表彰式を県庁にて開催した。

「健康宣言」は、従業員の健康を重要な経営資源と捉え、積極的に社員の健康づくりを行う経営手法である。

健康宣言事業所の登録数は、初年度は57社だったが、令和4年8月末時点で6,806社と大きく伸びている。

これは就職先に「健康や働き方への配慮」が求められ、中小企業においても、従業員の健康への配慮や維持増進をアピールすることが浸透してきたことによると見られる。

「健康宣言」の取り組み項目は、健診の全社員の受診をはじめ、健診後の特定保健指導、食生活の改善、運動機会の促進、受動喫煙対策、メンタルヘルス対策など多岐にわたる。

愛知支部では「健康宣言」を行っている事業所の中から、これらの項目について特に積極的な取り組みを行った事業所の表彰を行っている。

今年度は愛知県が認定する2021年度あいち健康経営アワード「表彰式」と協会けんぽの「健康宣言」に取り組み優良事業所表彰式(表彰企業29社)の合同表彰式を県庁にて開催した。

県の登録制度と協会けんぽ愛知支部の健康宣言が連携すること、県内企業の健康経営を推進する狙いで、今回合同で表彰式を開くことになった。

あいさつで、愛知県の山村秀章知事は「本日は受賞された企業の皆さまは、他の模範となるため、従業員の皆さんの健康をしっかりと守り、健康経営に取り組みしてほしい」と話した。

協会けんぽの戸田豊愛知支部長は「愛知県は優良な取り組みをしている企業がたくさんある。職域から健康づくりに取り組むことで、県全体での健康増進へ繋がる。今後とも健康経営に取り組む企業が増えることに期待をします。」

取り組み事例として今回表彰を受けた大橋運輸(瀬戸市)と中伝毛織(一宮市)を紹介する。

動画やクイズで社員に意識づけ

大橋運輸

「健康」あつての「安全」、「治療」より「予防」



体力作りのための講習会を定期的に開催



スマホを使って健康情報発信

大橋運輸(瀬戸市西松山町2の260)が健康経営に取り組むきっかけは、年金受給の開始が65歳になり、従業員が健康で長く働くことが企業で求められるようになったため。特に運輸業は安全が第一であり、安全運行にはドライバーの健康が欠かせない。健康を延ばすため、社内でのEIS(従業員満足度)の向上として、15年ほど前に健康経営に取り組み始めた。

取り組みの方針は、「健康」あつての「安全」、「治療」よりも「予防」の二本立て。管理栄養士の資格を持つ社員が定期的に健康に関するコンテンツを発信し、動画やクイズなど飽きさせない工夫で健康や生活習慣の意識づけをする。

食音の観点から生産者と直接契約し、季節の食材を社員に配布する「旬産旬消」の取り組みも実施している。

活動の輪は社内にとどまらず、地域にも広がっている。本社を置く瀬戸市も市民の高齢化などの課題を抱えている。食と健康のノウハウだけでなく、社内で実施しているヨガやバランスボール、太極拳の教室を地域住民向けに企画している。こうした地域貢献は社員のモチベーション向上にもつながっているようだ。

鍋嶋洋行社長は「人生100年時代に必要なのは仕事と人生を楽しむこと、そのためには健康が大事だと思ふ。人間は頑張る必要があるが、適度に息を抜くことも重要。体調や心身に配慮した取り組みをさらに加速させたい」と語る。

健康診断受診率100%、再検査も管理

中伝毛織

中小企業の課題が推進の原動力

中伝毛織(一宮市三条字郷内西1688)が健康経営に取り組んだきっかけは、業界の世代交代と技術継承への危機感。尾州の毛織物は地域を代表する産業で知られるが、リーマンショック以降、従業員の高齢化と人手不足に悩まされてきた。ぎりぎりの人員で回さざるを得ない状況の中、追い打ちをかけるように新型コロナウイルス感染症が拡大。分業によって成り立つ製造現場では、人員不足で一工程が止まることで納期遅れにつながる。社員の健康を守ることも重要な経営課題になったという。

そして、世代交代も戦後から数える、三代目になりつつある。かつて、技術は盗んで学ぶものと言われたが、それも昔の話。若い人には時間をかけて教育する必要がある、そのためにはベテラン社員が健康で、長く働けることが必要だ。

取り組みの成果は、健康診断の受診率100%という数字。健康診断だけでなく、再検査の受診も管理しフォローアップも欠かせない。医療機関と連携し、再検査も管理部門が声をかける。これがかきつけて子宮がんの早期発見につながった例も。LGBTQ対応もいち早く取り組み、心身の健康にも取り組む。

中島幸介社長は「高齢化が進み、技術継承は待たない。社員の健康が技術の伝承につながり、ひいては尾州毛織物を含む地場産業の将来にも反映するだろう。社外とも情報を共有し、取り組みの輪を広げていきたい」と語る。



栄養バランスに配慮したメニューを提供

中伝毛織の従業員のみさまへ

LGBTQに関する案内です。

10月11日は「カミングアウトの日」

4月4日は「トランスジェンダーの日」

当社は、「カミングアウトの日」・「トランスジェンダーの日」の前後2週間を社内啓蒙期間と設定します。この期間にLGBTQの理解と向上、そして一層多様化する社会の取組みのための機会とされますようお願いいたします。

社内でLGBTQ啓蒙に力を入れている